

スタンブウォーク

東京女子高等師範學校教諭

山 形 寛

スタンブウォークと言ふのは、その言葉が意味する如く、諸種の原形を繰返して捺印することによつて、簡易に一種の模様を生み出す仕事を言ふのである。

この仕事は小學校に於ては、可なり前から手工或は圖畫の一作業として著目せられて來たものであるが、幼稚園でやつても悪くないことと思ふから、簡單に二三の例に就てお話しやう。

印を押すと言ふことは、唯それだけでも子供等にまつて相當興味のあることである。一三人の子供を集めて、肉池と數個の印、(それは筆の軸や鉛筆の軸のやうな簡單なものでよい)を與へて置けば、三十分や一時間位は捨て置いて面白く遊ぶものである。十數年前に米國で發行された、インダストリアル、アート、テキストブックには、圓、

三角形、正方形、長短の線と言つたような幾つかの基本的な形の印で、積木で色々な立體的なものを構成させるやうに、平面的に諸種の形象や、模様なごを構成させやうと試みて居るが、あゝ言ふことも、あまり理窟つぼく考へてやつたのでは面白くないが、遊戯的にやれば相當の面白さはある。

然し私が此所でお話しやうと思ふのは、あまり組織立つた方法では無く、何んでも手近にあるものを原形として採用し、それを押すことによつて、繰返しの美しさとか、排列の面白さとかに觸れ、或る種の造形的興味を起させやうと言ふ位のものである。

二

何でも同じやうなものが或る程度に繰返される。そこに一種の面白さが涌いて來るものである。例へば片假名の

蟲 蟲 蟲 蟲 蟲

これなきは、讀んだのでは面白くない。蟲と言ふ文字の形ミ、その繰返しミ排列の面白さミで如何にも灯にむらがつて來る蟲の感じを面白く出して居るのである。

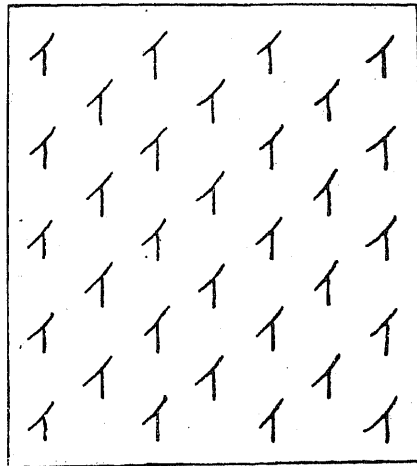
繰返しや排列の面白さを出すことは、むづかしく考へて來れば限りの無いものであるが、子供等が無心になす繰返しや排列の中にも、限り無い美しさの現はれるところがある。それを唯眺めさせるだけでよいのである。理窟つけたり、型にはめたりする要はない。

只べたくミ紙の上に印を押して行く、さうするミそこに様々な形が、排列が、生れて來る。それを見て、こんなのが出來た。模様のやうになつた。一寸變つたものが出來たと言つたやうな感じが起るであらう。唯それだけでよいのである。その間にいろいろなよい芽が伸ばされて行くのである。

三

スタンプウォークの材料ミしては、印になる材料ミ肉池ミ紙ミさへあればよい。

第一圖



イの字の如きものでも、次の圖のように繰返して來るミ一種の裝飾的な面白さが生じて來る。

北原白秋氏の、「灯のまはりの羽蟲」ミ言ふ文字を排列した詩がある。

蟲

蟲 蟲

蟲 蟲 蟲 蟲

蟲 蟲

印になる材料としては、筆や鉛筆の軸の圓や六角、紙片、小さな空箱、木の實、草の莖などの切口、釘の頭、等々何でも手近にあるものをそのまま用ふか、多少の加工(少し言葉が大げさだが)して用ふのである。

肉池又は肉こしては、スタンブ用に出来てゐるあれを用ひ、色も紫、赤、緑等數種あれば最もよい。墨汁のやうなものでも、水彩繪具のやうなものを用ひてもよい。

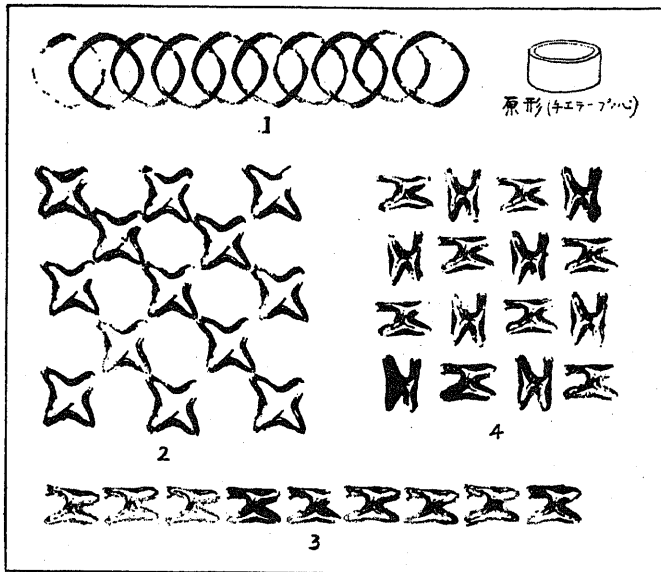
紙は普通の畫用紙、圖研紙のやうな多少吸収する性質のある紙、日本紙等何れでもよい。又無地の紙でもよく、淡色の方眼紙などを用ひてもよい。

次に二三の作例をお目にかけてませう。これは子供の作品では無いから、多少整ひ過ぎて居るかも知れんが、實際子供にやらせる時にもつゝ自由なものでよいのである。

四

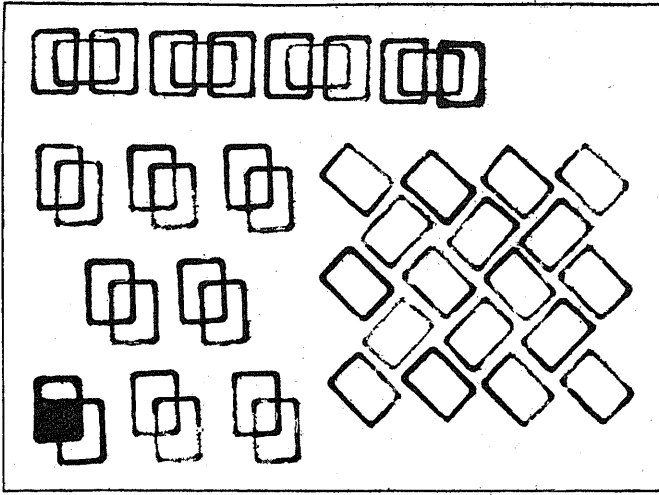
第二圖は手工テープの心になつて居つたボール紙の輪を印材として用ひたので、1は圓形の輪を四方から少し押しつぶしたものを重ね合せて押し行つたもの、2は更に四方から押し凹めたもので、市松模様風に押し行つたもの、3は更に兩側から平に押しつぶしたものを平に並べて押し行つたもの、4は之を交互に縦横に押し行つたもの、

圖 二 第



の、3は更に兩側から平に押しつぶしたものを平に並べて押し行つたもの、4は之を交互に縦横に押し行つたもの、

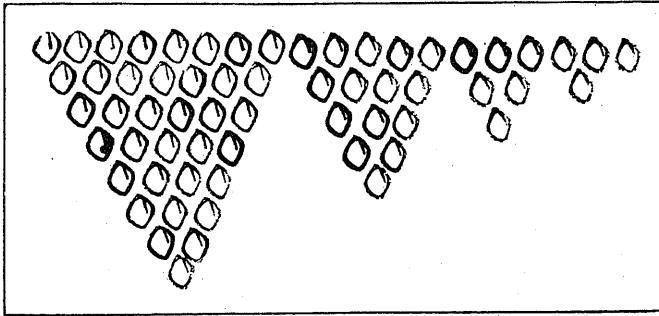
第三圖



のである。一つの簡単な資料でもまだく澤山の排列を得ることが出来るでせう。

第三圖は曲線定規のはいつて居つた、細長いボール紙の

第四圖



筒の小口を印材として用ひたものである。これは見られる如く、何れも形は少しも變へないでそのまゝ用ひ、排列だけを變へたものである。尙ほ本圖は肉として墨汁を用ひた

四四

ものであるが、左下のよごした箇所は墨汁をつけ過ぎて、薄い膜のはつて居るのを知らずにそのまゝ押したものである。

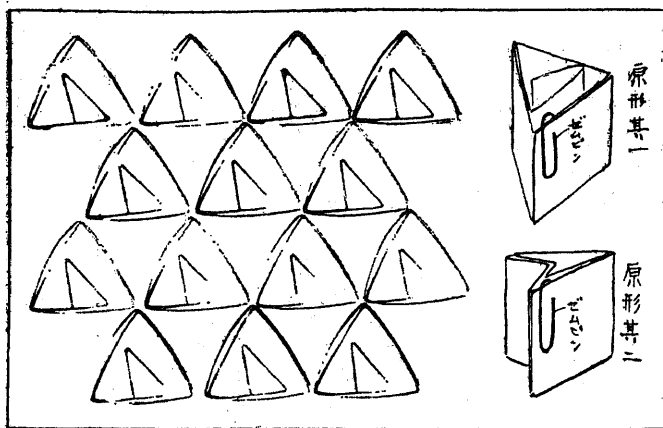
第四圖は紙巻煙草の朝日の吸口を印材として用ひたものである。

以上第二圖から第四圖までに示した如き資料は手近な所にいくらでも

あるであらう。

五

次に畫用紙又は端書なきで原形を作つて捺印する例を示

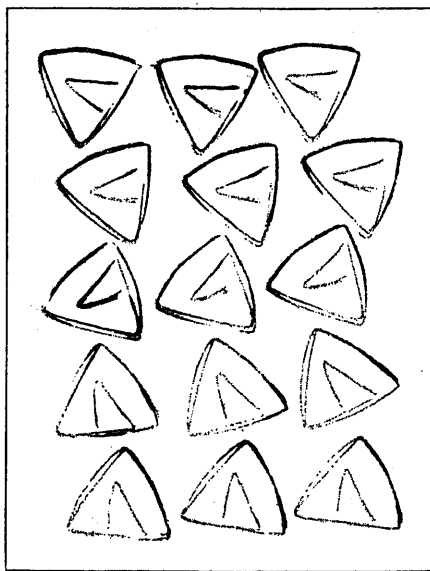


さう。

第五圖

は、畫用紙を幅三厘位に帶狀に切つたものを初め細かく、漸次大きく折り疊み、小口が揃ふやうにして、ゆるめて外

圖 六 第

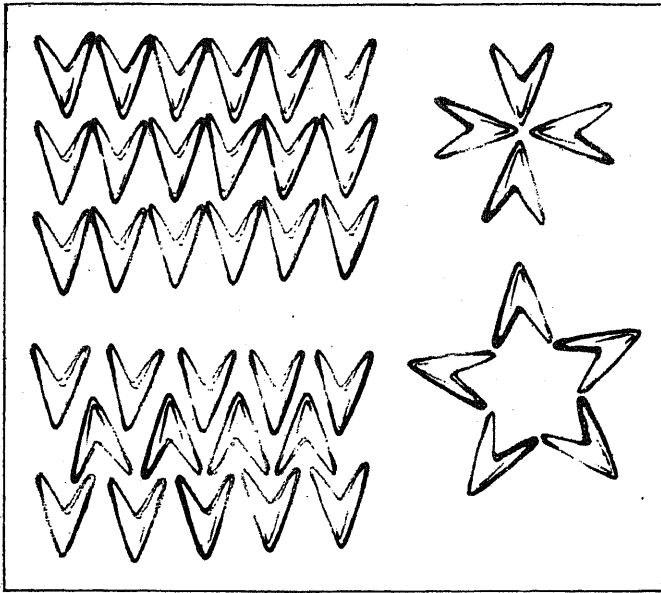


側が三角形をなすやうにし、端はゼムピンで止めるか、糊で止め原形其の一の如くしたものを印材として用ひ、鱗形に押ししたものである。

第六圖は、同じ印材で、やゝ不規則に押しして作つたものである。

第五圖と第六圖を比較するに、前者は線が幾分細くなつて居るが、之は印が新しいからである。だんく使つて居るに先端が少しづつぶれて線が大きくなるのである。印が少

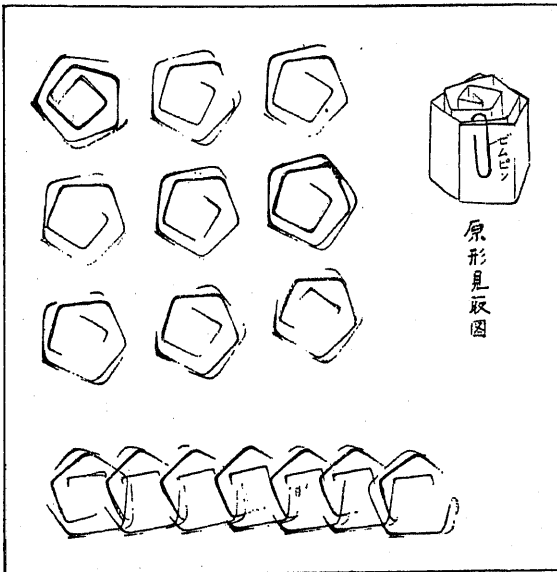
第七圖



しつかれて来て線の太くなつた方が、かへつて面白い場合が少くない。

第七圖は前一圖に用ひた原形の、一邊を中に押し込んで

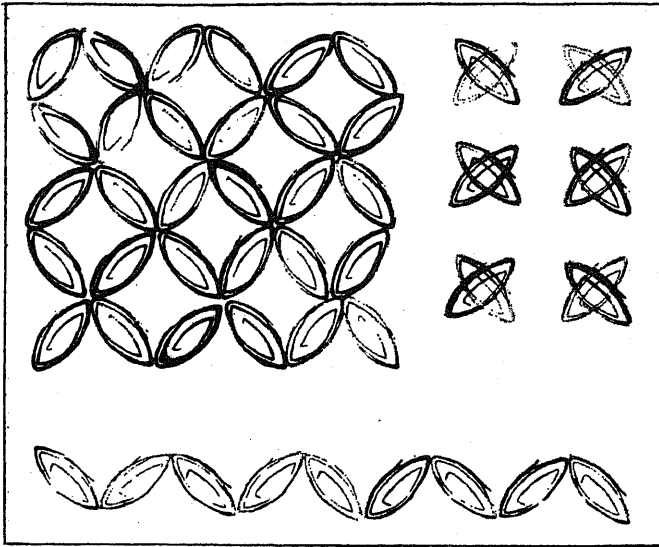
第八圖



平たく折り疊み、第五圖に原形其の二に示したやうな形にしたものを印材として用ひて作つた、四方連續模様と獨立模様とである。これは印がよほぎつかれて来て線の軟く太くなつて居る。

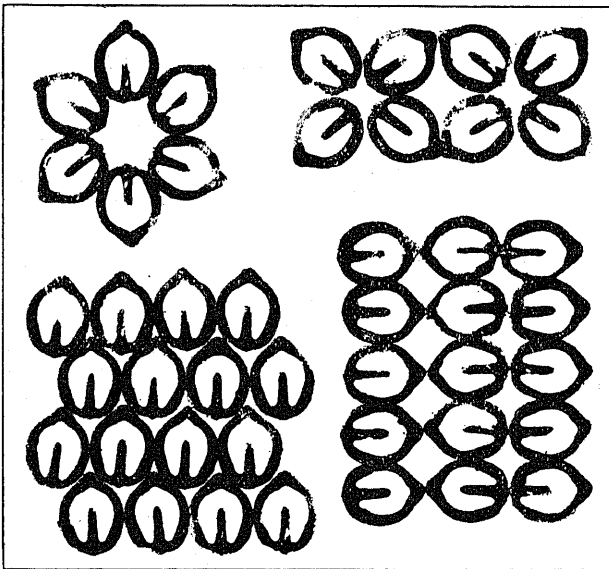
第七圖に用ひたやうな形は甚だ多くの變化ある圖様を求

第九圖



めるこころが出来る。
 第八圖は同じやうなやり方で、原形を五角形にまこめたものを用ひた例である。

第十圖



第九圖は、約三種幅に切つた畫用紙の帯を、鉛筆の軸に巻きつけ、それをゆるめて小口を渦線状にし、端を止めたものを、二つにつぶしたものを印材として用ひたものである。かう云ふ曲線状のものになるこ一層面白くなる。

六

最後に自然物を印材として用ひた例を一つお目にかけてやう。

第十圖はくるみの實を縦に二つ割にしたものを、紙鱧の上で磨つて平にしたものを資料としたものである。之は線が太く、感じが素朴で、人爲の材料よりも一層味がある。排列も子供に考へさせればもつと色々出来るであらう。

自然資料はよいものが澤山あるから、又の機會にいろいろ御目にかけることにしやう。

以上掲げた例はあまり適切なもので無かつたかも知れんが、作業それ自身は相當面白いことであり、進んでは色々な印刷術と結びつくことであつて、意味のあることであるから、お試しをおすゝめする。

(三一頁より)

第二小白齒

十——十二

犬齒

十一——十二

第二大白齒

十一——十三

第三大白齒(智齒)

二十歳以上

當園内に於ては園児をして常に口腔清潔を守らせる様に、「齒ブラシ」の使用をすゝめ、食後には含嗽する良習慣を涵養することに齒ブラシ教練を行ふて居る。

尙ほ定期口腔検査を行ひ時に齒牙に就き検査票を作り、その状況を家庭に通知し、家庭に協力して可及的早期に治療する方針であるが、尙ほ進みては園内に齒科の治療室を設け、家庭にて治療し難きものは保護者の承諾の下に園内齒科治療所にて處致する様に成ることは園児保健上實に急務と信ずる次第である。

湯淺氏は、東京女子高等師範學校附屬小學校及び附屬幼稚園の齒科の診察及び診療を御願申上げてゐる方でございませう。

(係り)